

## みぎわ つうしん

NPO 法人みぎわ

〒631-0034 奈良市学園南 3-14-12

【TEL】070-1811-4115 / 070-1745-4115

【MAIL】npo.migiwa@gmail.com

【HP】http://migiwa.link/

【FB】ホームホスピスみぎわ

NPO 法人みぎわは、在宅終末期支援事業、並びに、養子縁組あっせん事業を行う団体です。

## 寄り添う・命をつなぐ

## ♡養子縁組 感謝の報告♡

～7月産まれた

障がいのある赤ちゃん。

温かな家庭に繋がりました～



## 愛されるため生まれた

NPO みぎわ スタッフ 平山利香

君は愛されるため生まれた  
君の生涯は愛で満ちている  
永遠の神の愛は、  
我らの出会いの中で実を結ぶ  
君の存在がわたしには、  
どれほどおおきな喜びでしょう

ダウン症の赤ちゃんを養子として迎えたご夫妻の初めての対面の瞬間。

この歌詞を彷彿とさせる喜びあふれたご夫妻の笑顔を忘れられない。

障がいを持つ子どもは乳児院や児童養護施設に暮らす3万人の内4分の1以上を占め、年々増加している。そのような現実の中で、こんなにも愛され、喜んで迎え入れてくださるご夫妻との出会いは、奇跡としか言いようがない。

生まれたすべての命は母の胎に宿ったその時から、愛され、喜びの存在なのである。

様々な困難な事情で実親が育てられなくなったとしても、愛される存在であることには何ら変わりはない。

小さな赤ちゃんの困難な状況も全部そのまま愛し、受け止めてくださる家族との出会いが必ずあると信じ、これからも活動を続けていきたい。

～理事長より ごあいさつ～

NPO 法人みぎわ理事長 松原宏樹

NPO 法人みぎわを覚えてご支援とご協力をいただき、心から感謝申し上げます。

私たちは、赤ちゃんから人生の最後を歩む人々まで、そのすべてに寄り添い、決して一人ではないことを知ってもらい、「生きてきてよかった」と思っていたきたい。そのために活動しています。

その中心はホームホスピスと、命をつなぐ養子縁組の働きです。

ホームホスピスは、ホスピス精神にのっとり、がん末期の方々だけではなく、介護困難者や難病、また生活に困っておられる方の最後に寄り添っています。

経験豊富な管理者やスタッフが利用者とその家族の身になって考え、いつも最善を導きだしています。それぞれの歩み、それぞれの痛み、それぞれのしんどさに寄り添い、どの方の人生も尊いことをお伝えしています。

また、命をつなぐ働きは、虐待や中絶から子どもの命を守り、あたたかな家庭に子どもの命をつないでいます。

法律改正による認可制度移行の中で、8月に奈良県より正式許可をいただき、今日現在までに2名の子どもを家庭につなぐことができました。この2人の子どもは障がいがありましたが、子どもを愛し、あるがままを受け入れてくださる本当にあたたかな養親に引き取られました。

ホームホスピスは、もっと困っておられる方々にも届きたいと考えています。どうぞそのために、皆様のご理解とご支援を心からお願い申し上げます。

また、命をつなぐ働きは、障がいがあっても受け入れてくださる養親様を求めています。こちらも皆様のご支援を必要としています。どうぞ今後ともよろしくお願い申し上げます。

●みぎわ活動報告● 5/10 ライフ・ホープ・ネットワーク訪問 6/7 JECカンファレンス 「いのちのドア」永原郁子師聴講 6/27 東大寺福祉療育病院、奈良親子レスパイトハウス訪問 7/7 全妊ネットシンポジウム 7/21 日本ダウン症療育研究会 8/1 養子縁組あっせん許可取得 8/8 厚労省 養子縁組民間あっせん機関意見交換会 8/20-22 小さないのちを守る会「中絶防止キャンペーン」参加 9/7 妊娠SOS相談対応研修参加 9/17 チャリティコンサートにて案内 9月 鳥取こども学園訪問 9/18 産後ケア「やわらかい風」訪問 9/18 自殺予防ゲートキーパー研修参加 9/29 ボランティア講習会開催 10月 障がいの命を守り愛する会訪問 10/8 児童養護施設レバノンホーム訪問 10/8 障害者と教会委員会 10/11 日本バプテスト連盟牧師会にて案内 10/12 妊娠SOS相談対応研修 10/16 児童家庭支援センターてんり 里親研修



# あなたは大切な人



ホームホスピスみぎわ管理者・副理事長 櫻井徳恵



人は関係性の中で生きています。介護は「関係」であり、「媒介」です。「あなたは大切な人。あなたは一人ではない。」ご本人、そしてご家族にこのことを伝えるために、私たちはみぎわに居ます。日常（食事・排泄・睡眠）を通じて、「大丈夫。あなたは一人ではない。生きていける。」と伝えきる。そんな「人にしかできない仕事」をしています。

介護は「関係」だからこそ、揺れ動く曖昧な世界。

毎日毎日、変化する状況に「なんでだろう？どうすればいいのだろう？」と、頭と心と身体をフル回転させる毎日。「あーでもない。こーでもない。うーん。どうする？」と私たちが頭を抱える中、遠くから「お食事まだですか？」との声。

がくっ。

いっ…今食べてお部屋に戻ったとこですけど？

目の前の状況がどうであれ、その人の中から湧き上がってくる「生きようとする力の強さ」に、その笑顔に、私たちは救われて 今日もまた 頑張っていこうと思うのです。

住人の皆さん。みぎわに居てくれてありがとう。

## 『出生前診断がもたらしたもの』

その2

助産師 認定遺伝カウンセラー 増井薫

～遺伝医学の進歩にともない、人が人として歩むことの意味を慎重に考えなくてはならない時代になりました。出生前診断は、赤ちゃんの健康を願う親から多くの親御さんが受診されます。それは、選択的中絶を肯定することに直結するのでしょうか。出生前診断を受けることは、問題の解決になるのでしょうか。～

あからさまに表立って言えないのは、障がい者差別であることと非難されることを恐れたり、中絶そのものへの恐怖だったり、絨毛検査や羊水検査などの侵襲的な検査の流産のリスクを恐れていたり、自分だけは大丈夫だろうという、何の根拠もない思い込みが背後にあるからだと考えます。

健康な子どもが欲しいと思っている人が大多数ならば、出生前診断を否定できないのではないかと？ そう思っている、願っている人の気持ちを否定することはできないのではないかと？

ほんとうに、出生前診断を希望してカウンセリングに来談してくる大多数の方々には、異常があれば、選択的中絶を目的として出生前診断を受けているのでしょうか？ 授かった赤ちゃんが、たとえどんな病気や障がいを持っていたとしても、いのちをかけて、思いを尽くして全力で育てることが親の務めではないか？ それか、妊娠して子どもを産み育てたいと願う親として当然の心構えではないか？ と基本的には考えている私には、この「大多数」ということばに、動揺と困惑を抱えたまま、乗り越えることのできない高く厚い壁のようなものを感じ悶々としていました。

さて、現実はどうでしょうか？ (次号へ続く)

## 入会・更新・寄付のお願い

2018年度上半期、延べ90名の方々（お名前は別紙記載）から寄せられました会費、寄付金は125万1000円となりました。尊いご支援、心から感謝申し上げます。みぎわの活動は、皆さま方からの会費、ご寄付によって支えられています。どうぞ、ご協力お願い致します。

賛助会員 3000円(年会費)

【振込先】 特定非営利活動法人みぎわ

- 1 郵便振替口座 記号00910-8 記号311180
- 2 ゆうちょ銀行(他の金融機関からの振込)  
店番:458 普通:0899351
- 3 奈良信用金庫 学園前支店 普通:0374195

NPO みぎわでは今後、講演会、映画会、養親研修など開催予定です。ホームページやFBに詳細をアップしていきますので、興味のある方はどうぞご覧ください。または、平山までお問い合わせください。(np0.migiwa@gmail.com)

♪ホームホスピス みぎわにて♪



# 104才の

# お誕生日♪



ホームホスピスみぎわ 家事スタッフ 相川隆子

104才のお誕生日を、娘さん、お孫さん、ひ孫さん、みぎわの住人のみなさま、スタッフ…みんなでお祝いしました。

先もって、「プレゼント何がいい？」と聞くと、「折角もらうなら綺麗な美しい色のも、お花がいいね。」というわけで、リクエストの紫色の花束とケーキを用意。

ローソクの火を消して、大拍手です。

みぎわには毎日のように、ご家族が来られ、それは、住人のみなさまの楽しみと安らぎと、スタッフの支えにもなっています。

このご家族との絆を通して、ご家族のために祈りと心の支援をさせていただければ…と思っています。

またスタッフのために、いろいろなところで多くの方々から祈ってくださっていることを覚えて感謝しています。

これからもよろしくお祈りお願いいたします。